ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第25回放送の概要（2010年10月30日放送）

パーソナリティ
さくら（安本久美子）
タロウ（佃　由晃）
なかちゃん（中嶋邦弘）

コアラさんの地域瓦版
アコちゃん（三木文子）

ミキサー
門ちゃん（門田成延）
一ノ瀬悟
相談役
わだかん（和田幹司）
会計
小山俊則

（ＣＭ）自分の母校じゃないけれど地元の高校をつい応援してしまう。赤い羽根共同募金はそんな気持ちに似ています。自分の街を良くする仕組み、赤い羽根。

（ＣＭ）ＪＲ兵庫駅前の「神戸ルミナスホテル」，抜群のロケーション、最新の設備と最高のおもてなし、ビジネス、観光の快適な拠点として皆様のお越しをお待ちしております。今日は「神戸ルミナスホテル」様（TEL：078-511-7700）のご協力を頂きました。

１．オープニング

今日はさくらさんの代わりにあこちゃんがオープニングトークをします。最近想っていることは「かげん」ということである。半世紀ほど前まではかまどでご飯を炊いたり薪をくべる、風呂を沸かすことは都会にもあったと思うが、そのとき必要なのはかげんを知る、かげんを見るといった勘である。海に出る人は潮や風を読み、山に行く人は雲や風や空気を感じ、田畑に出る人は土や空気の乾きを肌で感じたり読んだりする。それでいろんなことを予測し工夫し対応してきた。一時ファジーという言葉が話題になったが日本人はもともと五感を研ぎ澄まし、自然を知る感覚、杜氏が糀をまいたり料理人が火かげん、味かげんをみる、ころあい、ええ按配といった微妙な感覚を持っていた。科学が発達すると勘というものが失われてきて取り戻せるのかと考えてしまう。科学の発達は創造力、直感や第六感を信じ試した結果発達してきたものと思う。かげんを知らずに起こった悲惨な事件、空気を読まずに起こった事件が多いので、本来の野生の勘、母性本能もそうだが戻ってこないのかなと考えてしまう。ノーベル賞受賞者が相次いでいるが理科系離れに歯止めがかかったと今日の新聞に書いてあったが、喜ばしいことではあるが若い人に接した経験では机上の勉強づけになった若者の野生の勘は何時戻るのかと考えてしまう。今日は若い後輩に来てもらっているが学生のうちに自分のためでなくたくさんの人の中の一人として感じて工夫をしていってほしいと思います。

２．ゲストコーナ：長田中学播磨大作先生（84 陽会）

兵庫高校に入学した翌年の 1 月 17 日に震災に遭遇した。家が兵庫高校の近くだったのでそのまま母校の兵庫高校に避難した。家は半壊であったが電気、ガス、水道が止まり生活が出来なくなったので家族全員が避難した。避難者は最大 4000 人以上と言われ体育館で寝起きしていたが教室も避難者で一杯であり授業の出来る状態ではなかった。何かしなければと思った時、高校の先生から避難者の名簿作りを手伝うように言われ、避難しながらボランティアをしていた。最初は

避難所として知られておらず神戸市からの支援物資が届かなかった。しかし但馬などから物資を送ってもらいその物資を4000人に配るのが大変だった。また生活しているのでトイレの水が流せないなどの苦労があった。高校生、大学生をはじめ20代、30代の若いボランティアが色んな所からたくさん来てくれていたので、その人たちと接し話をする中で若い人だから出来るのだということを教えてもらった。学校の先生が授業で教えているのとは違い、避難している人と接している姿を見て、また自分自身が避難者とトラブルになり喧嘩しかけた時に代わりに謝ってもらったりしたことから、学校の先生はいいなと思いそういう先生になりたいと思った。人間の一番いいところと一番悪いところをはっきり見えたのが震災だったと思う。震災がなければ今の自分はなかったと思う。授業については再開されたのが2月半ばで、兵庫高校は避難場所であったため各学年が別れて他の高校で授業を受けた。兵庫高校に避難しているのに何故か違う甲北高校に通い、これからどこに帰るのと言われると兵庫高校に帰るという変わった生活をしていた。先生も生徒もそのような生活をしていたし、放課後は部活動ではなく先生も生徒も学校に戻って皆でボランティア活動をしていた。その時の経験が今長田中学で1年生の担任をしている中で役立っている。今、教えている生徒が震災を知らない世代なので経験した自分だからこそが伝えることが出来ると思って自分の経験を踏まえて話をしている。大学卒業後、先生になって当初養護学校に勤務した経験があるが大変勉強になった。自閉症やダウン症の方、突然発作を起こす生徒さんもおられ、知らないことがたくさんあったが、一人づつどのような支援をしたら良いかを深く勉強するきっかけになった。親御さんはお子さんに対する想いを強く持っておられるが、自分が親になった時その気持ちがよく理解できた。養護学校ではオムツを替えたりするので、高校時代の友達にオムツを替えられるのかと言われた時、普段からやっているよとか、食事を与えるのも養護学校でやっているのと似ているので子育てに役立った。奥さんからはどうして私より上手に食事をあげられるのと言われた。日頃生きている中で無駄な時間はないと考えているので、兵庫高校に通い震災に会ったことが次につながり、養護学校の経験、今の経験が次につながるので一つ一つの時間、人とのつながりを大事していく必要があると思っている。

大震災でこの地域で出てきた社会現象は地域の問題、コミュニティの問題、弱者に対する問題など10年後の日本で起こるだろうと想定されていたことが一度に出たので、そういったことを学んでこられたのは素晴らしいことである。

長田中学のホームページについては中溝校長が1日に3回アップ（更新）している。野球部が試合に出た時は現在何回で何対何といったような中継までしている。保護者から学校の様子がわかるということでの評判も高い。アクセス数、アップ数も神戸市で一番である。例えばイベントについては予定から始まって結果まで丁寧に事細かく書かれている。先日行われた文化祭はその様子をホームページで体験できるページが作られている。

震災に関する長田中学の取り組みについては、毎年1月17日に新長田駅前で行われている追悼行事「KOBEに灯りを in ながた」はこれまでも参加しているが、今年は新しい取り組みとして1年生に人の気持ちがわかる大人になってもらうため、学年として参加できる形として先日もわだかんさんに学校に来てもらい竹募金箱作りをした。震災に関する話なども生徒はよく聞いていた。作業もあったので記憶に残る行事であった。文化祭の舞台の部において1年生は竹募金箱のことを発表した。出来た募金箱は文化祭で展示し、募金箱をどのようにするかは今考えているところである。生徒が1月17日にどのような想いを持って参加し、次につなげるかを考えるかだと思っている。今後の予定として12月8日にろうそく作りを予定しており、今ペットボトルを学年で集めているところである。

総合文化部とは学校の中で文化部はいくつかあるが、生徒数の減少により少しずつ統廃合により形を変え、新聞部とパソコン部が合体して出来たものである。普段はパソコンルームでパソコンをしたり勉強をしているが、月に2回ほど地域福祉センターに出かけ真野の里交流学級で生徒

が地域のお年寄りにパソコンを教えている。3 年生がメインでやっているが進路に向けた勉強があるので今日で引退し 1，2 年生に引き継ぐイベントを行ってきたところである。真野の方は日頃中学生に接する機会はないので、中学校から地域に出向き顔と名前を覚えてもらいいまどきの中学生はこうなんだということを知ってもらう。生徒もオープニングの話にあった「かげん」を知る、ＴＰＯをわきまえるためにも地域の年齢の違う方と接することが大事だと思っている。昔は子供を叱ってくれる近所の人がいたが、今はそのような人がいなくなってきているので生徒達にとってもいい機会だと思っている。パソコンを教えるためには自分も学ぶ必要がありよい取り組みだと思う。交流学級の後半はわだかんさんの長田の街の歴史の話や地域の方のこれまでの自分自身の職業についての体験話を聞いている。今日はわだかんさんからこれまでの話の総括ということで話を聞いたが長田出身なので昔のことを思い出しながら懐かしく聞かせてもらった。

長田中学周辺は震災で最も被害の大きかった地域でもあるが、そこのコミュニティが戻り子供達とお年寄りを含めた地域の方との交流が実現していることはうれしいことである。今年は震災 15 周年で長田中学は他校と一緒に指揮者として有名な佐渡裕さんの指揮で吹奏楽の演奏を行った。なかなかこのような機会はないのでとても良い経験をさせてもらった。

いまどきの中学生はという観点で見た場合、自分の丸山中学時代ではしてはいけないようなことについて大人の目があり、見られているなという感覚があった。中学生はこれからの地域を支える人材なので、10 年後 20 年後のこの街のため中学生に色んなことを伝えわかってもらい次の世代を作っていく必要があると思っている。中学生にはもっと知ってほしいこと経験してほしいことがたくさんあるが、今の中学生は失敗するのが怖いのか難しいところがある。今後中学校と地域の交流をどのようにしていくかが教師として大事な仕事だと思っている。

３．来月のゲスト

サクソフォン奏者の津村美妃さんにお越し頂きます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com